



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## クスリとリスク

薬には、主作用と副作用があります。主作用は、病気を治したり、症状を和らげたりする作用で、たとえば風邪薬であれば、熱を下げる、咳を鎮める、鼻水を止めるといった作用が主作用になります。反対に、主作用以外の望んでいない作用を副作用といい、たとえば眠気を催す、ブツブツの湿疹が出る、便秘になるなどです。薬を使用する人の体質や状態によって、同じ薬でも副作用の現れ方が違い、ほとんど起こらない人もいれば、ひどい副作用がでる人もいます。また、使用を続けても特に問題とならない副作用もありますが、人体にとって重大な影響をおよぼす副作用もあり、その場合には薬の使用をすぐにやめ、医師か薬剤師に相談する必要があるあります。

副作用は、どうしても避けることはできません。従って、病院などで診

察を受けて処方してもらった薬では、その薬で起こる可能性のある副作用と副作用が起こった時の対処法を医師か薬剤師に聞いておくことよいでしょう。特に、アレルギー体質の人や持病がある人では、薬の飲み合わせや体質などにより副作用が起こりやすかったりしますし、車の運転や危険な作業をする人などは、眠気やふらつきなどの副作用で重大な事故が起きる可能性があるので注意が必要です。

薬局などで薬を購入する際も、同じように薬剤師が登録販売員に相談し確認しておいてください。また、購入した薬に添付されている説明書には、正しく使用するために必要なことが書かれています。使用上の注意として、「してはいけないこと」には、守らなければ症状が悪化したり、副作用や事故が起こりやすくなることなどが、「相談すること」には、持病があったり、アレルギー体質の人、妊娠や授乳中の人など、副作用が起こった場合など医師や薬剤師に相談したほ

うがよいことが、「その他の注意」には、軽い副作用などが書かれています。ほかには、有効成分や添加物の名前、1回あたりの使用量（小児が使用できる薬では年齢ごとの使用量）と1日の使用回数、どのような病気の症状のときに使用するか、保管・取り扱い上の注意、消費者相談窓口（問い合わせ先）などが書かれています。説明書はよく読んでしっかり確認して、薬を保存する場合には説明書も一緒に保存するようにしましょう。

薬は、正しく使用すれば病気を治したり、症状を和らげたりすることができます。しかし、間違った使い方をすれば、十分効果が出なかったり、副作用が起こりやすくなったりするので、薬の説明書をしっかりと読み、用法・用量を守って正しく使用してください。もし、普段と違うなどの変わった症状が現れたら、すぐに医師か薬剤師に相談してください。

（北区）薬局エビラファーマシー

松本 博志